

人々のおもいが集う吉野公民館

吉野公民館だより

あいちの未来を
つくる

マグマシティ
鹿児島市

(R5年7月号)

発行：鹿児島市吉野公民館 所在地 鹿児島市吉野4丁目4-3

電話：244-2566 FAX 244-2567

(公民館だよりは、市のホームページでも御覧になれます。)

『歩(ほ)育(いく)』っていいですよ!!

社会教育指導員 松下 正信

『歩育』という言葉が聞かれたことがあるでしょうか。『歩育』という言葉自体は造語ですが、何となくイメージできるのではないのでしょうか。意味は、「歩くことによって育てる」ということです。「育てる」ということから、もともとは「子供たちを歩かせることによって、子供たちに様々なことを育てていく」という意味で使われています。

子供たちが毎日歩いて登下校していると、①体力の向上、②挨拶等による交流、③交通安全や不審者対策への意識の向上、④美しい自然への気づき、⑤厳しい自然に対する耐性の育成、などが期待できるのではないかとされています。

しかし私は、これらの中のほとんどが、子供だけではなく大人でも期待できるのではないかと考えます。体力維持のためにウォーキングをしている方がいらっしゃいます。その方々は、会う人とよく挨拶したり、交通安全に気を付けたり、美しい花や朝・夕焼けなどに感動したり、少々の風雨には関係なく歩いたりされているのではないのでしょうか。

歩くという単純な行動であっても、様々な気づきや自分にとってのプラスアルファの可能性があり、それは年齢に関係無く期待できるということです。

さあ、あなたも更なる向上を目指して、自分自身を『歩育』してみたいはいかがでしょうか。

吉野地域コミュニティ協議会社会教育連絡会

5月16日(火)、本年度第1回の吉野地域コミュニティ協議会社会教育連絡会を開催しました。各校区コミュニティ協議会会長、事務局長、社会教育担当者、小・中学校長(教頭)が集まり、各校区社会教育に関する本年度の主な活動の紹介がなされ、各学校からも特色ある教育活動の紹介等もありました。また、それぞれの委員や諸関係機関との連携の在り方等について意見交換がなされました。



【吉野地域コミュニティ協議会社会教育連絡会】

令和5年度吉野公民館運営審議会委員(紹介)

吉野公民館では、市民の多様なニーズに応え、住民の連帯意識の啓発とボランティア精神の涵養を図るため、外部から諮問委員を依頼し、公民館活動の充実・強化を図っています。

令和5年度の委員は以下のとおりです。(敬称略) ◎の方は新任

古石 美紀 (吉野)

長野 俊之 (吉野東)

栗田 誠一 (川上)

村山ミュキ (大明丘)

◎ 山内 奈子 (吉野東)

中馬 道則 (吉野)

社会学級委員等研修会

5月25日(木)、吉野地域4校区の社会学級(家庭教育学級・父親セミナー・成人学級・女性学級)の代表者並びに、コミュニティ協議会長や事務局長等が一堂に会し、社会学級委員等研修会を開催しました。

当日は、社会学級の趣旨や概要、報告書等の作成についての説明の後、2つの分科会に分かれて協議を行いました。分科会では、各校区のそれぞれの学級の計画・運営方法等について発表があり、特色ある取組や講師等についての情報交換や質問・意見等が出されました。今後は、それぞれの学級で、主体的な学習活動を展開しながら、当面する諸課題の解決に取り組んでいきます。



【社会学級委員等研修会】



【人権の花「ひまわり」の苗配布】

人権擁護委員「ひまわり」の苗配布

6月1日(木)は、人権擁護委員の日です。そこで、吉野公民館に鹿児島人権擁護委員協議会の方が来館され、前期講座受講生や自主学習グループの皆さんに、人権の花「ひまわり」の苗を配られました。人権擁護委員は、法務局と連携して、地域の皆様から人権相談を受け、問題解決のお手伝いをしたり、地域の皆さんに人権について関心を持ってもらえるような啓発活動を行ったりしています。

また鹿児島県では、子供たちの人権意識の向上のため、主に小学生を対象とした啓発運動(人権の花運動)にも取り組んでおり、令和5年度は、県内26の小学校が「人権の花運動」に参加しています。

図書室より

◇ 図書室でも七夕の節句に関連する絵本などを展示予定です。



『きせつの手づくり図鑑』



『七夕の月』



『たなばたのねがいごと』



『キラキラぼしのたなばた』



『たなばたバス』

絵本や紙芝居で由来を読んだり、工作の本で珍しい短冊飾りを作ったりするのもおすすめです☆

六月燈ってどんな祭り?

旧暦六月(現在は新暦七月)に県内の神社や寺院で、それぞれ日を定めて行われる夏祭り。

「ログガドー」の呼び名で県民に親しまれている。鹿児島市などでは、七月に入ると毎晩のように市内の数か所で催され、次々に月末まで続く。

『鹿児島大百科事典』(南日本新聞社)より

【参照】

『鹿児島ふるさとの祭り』: 南方新社

『鹿児島の民族暦』: 海鳥社

